

令和 7 年 12 月 10 日

各 報 道 機 関 御 中

国立大学法人 山梨大学

JST「共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)

未来共創分野(フェーズ1)」の採択決定について

～産学官連携による山梨ヘルスケア・セントラルシティ未来共創拠点形成～

このたび、本学を代表機関(プロジェクトリーダー:大学院総合研究部 大岡忠生准教授)として、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が公募した「共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT) 未来共創分野(フェーズ1)」に採択されました。

山梨県中央市を中心に、オミックス情報¹・IoT²・AI を組み合わせた世界最大級の健康データ基盤を築き、地域の皆さんとともに「病気にならない街づくり」を進めています。

大学・地域企業・自治体が一体となって、「住民主体で健康を守る山梨モデル」を全国、そして世界へ発信し、将来的には疾病予防・医療費抑制・経済活性化を同時に実現する国際モデル都市を目指すこととしています。

本プログラムは、文部科学省・国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)により実施され、大学等のうち地域大学等を中心とし、若手研究者をプロジェクトリーダーとするチームによって、ステークホルダーとの議論等を通じて地域の社会課題を見極め、当該社会課題の解決に寄与するグローバル水準の研究成果の創出と将来の自立的・持続的な産学官共創拠点の形成を目指すもので、49件の申請応募中3件が採択されました。

<プロジェクト実施概要>

1. 拠点名称:

オミックス・IoT・AI で健康と社会を最適化する
山梨ヘルスケア・セントラルシティ未来共創拠点

2. プロジェクトリーダー:

大岡 忠生 山梨大学大学院総合研究部 医学域 社会医学講座 准教授
株式会社 Taomics(山梨大学発ベンチャー企業) 代表取締役

3. 副プロジェクトリーダー(3名):

赤岡 重人 山梨県中央市 副市長
金子 真吾 株式会社はくばく 市場戦略本部 開発部 部長
三友 周太 シミックホールディングス株式会社 Consulting and Navigation Unit. Principal

4. 代表機関

山梨大学

5. 拠点運営機構 設置責任者

市川 満 山梨大学 理事・副学長

6. 幹事自治体

山梨県、山梨県中央市

7. 幹事機関

株式会社 Taomics、株式会社はくばく、シミックホールディングス株式会社、

公益財団法人山梨総合研究所

8. 参画機関

(1)大学等:

東京大学、東北大学、千葉大学、東京科学大学、九州大学、福島県立医科大学、
奈良女子大学、ハーバード大学、スタンフォード大学

(2)企業等:

グーグル合同会社、株式会社電通、大塚製薬株式会社、株式会社 JTB、
積水ハウス株式会社、株式会社東急、サーモフィッシュ－サイエンティフィック ジャパン
グループ、株式会社クスリのサンロード、株式会社日医工山梨

9. プロジェクト概要

別紙のとおり

10. プロジェクトが目指す将来像

これまで本学が培ってきた山梨マルチオミックスコホート研究³を地域に実装して発展させることで、住民の皆さまが自分の健康情報を日常の行動に活かし、主体的に健康をデザインできる社会インフラを整備していきます。この仕組みが整うことで、街全体が病気にならないように住民を見守り、住民の健康情報が自然と蓄積され、生活習慣病の予防や早期介入が地域レベルで実現します。結果として医療費の抑制や新産業の創出、生産性の向上につながり、地域経済そのものが持続的に発展していきます。

また、将来的には、品川駅から約20分でアクセス可能となるリニア新幹線・山梨新駅の周辺に、研究・産業・住民生活が有機的につながる「未来のヘルスケア拠点」を形成し、世界に開かれた健康都市として成長していくことを目指します。私たちはここ山梨から、誰もが自らの健康を育み、街とともに未来をつくる「ヘルスケア・セントラルシティ」を創出し、日本・山梨発の新しい予防医療モデルと次世代型の健康産業を世界に向けて発信していきます。

(用語説明)

*1 オミックス情報

遺伝子(ゲノム)、体内のたんぱく質(プロテオーム)、代謝物(メタボローム)など、体の状態を総合的に理解するための「分子情報のセット」を指します。血液などの検査から何千～何万もの項目を一度に測定し、病気のリスクや体質、体の変化を通常の血液検査よりも詳しく知ることができます。

*2 IoT (Internet of Things)

スマートウォッチや健康家電、センサーなど、身の回りのさまざまな機器がインターネットにつながり、データを自動的に記録・蓄積する仕組みのことです。例えば、歩数・心拍・睡眠などのデータが自動的に集まり、健康管理に活かせるようになります。

*3 山梨マルチオミックスコホート研究

山梨大学医学部社会医学講座の大岡忠生准教授を中心となって実施している、大規模な健康調査研究です。住民の方々から遺伝子・たんぱく質・代謝物などのオミックスデータに加え、生活習慣や IoT データも組み合わせて収集し、AI を活用することで病気の予防や健康づくりに役立つ新しい知見を生み出すことを目的としています。

【JST HP】

<https://www.jst.go.jp/pr/info/info1815/index.html>

【事業採択についての問合せ先】

山梨大学 研究力強化推進センター
特任准教授 山下さやか
TEL:055-273-1266
E-mail:syamashita@yamanashi.ac.jp

【研究についての問合せ先】

山梨大学 大学院総合研究部医学域
(医学部社会医学講座)
准教授 大岡 忠生
TEL:055-273-9566
E-mail:tohoka@yamanashi.ac.jp

【広報についての問合せ先】

山梨大学 総務企画部 総務課 広報・渉外室
TEL:055-220-8005, 80069
E-mail:koho@yamanashi.ac.jp

セントラルシティ未来共創拠点

代表機関	山梨大学	プロジェクトリーダー	大岡 忠生 山梨大学大学院総合研究部医学域 准教授 株式会社Taomics 代表取締役
幹事自治体	山梨県、山梨県中央市	幹事機関	株式会社はくばく、シミックホールディングス株式会社、 株式会社Taomics、公益社団法人山梨総合研究所
参画機関	東京大学、東北大学、千葉大学、東京科学大学、九州大学、福島県立医科大学、奈良女子大学、 ハーバード大学、スタンフォード大学、グーグル合同会社、株式会社電通、大塚製薬株式会社、株式会社JTB、積水ハウス株式会社、株式会社東急、 サーモフィッシャーサイエンティフィック ジャパングループ、株式会社クスリのサンロード、株式会社日医工山梨		

プロジェクトの概要

本プロジェクトは「**全ての住民が有効かつ主体的に健康情報を利活用できる環境により、地域の健康と経済が持続的に発展するヘルスケア未来社会の実現**」をビジョンに定め、山梨から世界へ展開可能なオミックス×IoT×AIによる住民主体型健康管理拠点の構築を目指すものである。拠点がもつキーサイエンスを基に、山梨県中央市でオミックス・IoT情報の統合基盤を構築し、街全体で先端健康情報を利活用する仕組みを共創し、ビジョン達成を目指す。強固な若手支援体制と産学官民連携による外部資金循環により社会実装を加速し、持続運営の可能な地域環境基盤を整備し、**疾病予防・医療費抑制・経済活性化**を同時に実現する国際モデル都市を創出する。

**地域未来社会ビジョン**

全ての住民が有効かつ主体的に健康情報を利活用できる環境により、地域の健康と経済が持続的に発展するヘルスケア未来社会の実現

TARGET1: グローバル水準の大規模健康情報基盤の確立

研究開発課題1
大規模縦断オミックス・IoT
バイオバンクの構築と自立した資金循環モデルの確立

TARGET2: 生活習慣病/医療費の予測制御・最適化手段の確立

研究開発課題2
オミックス・IoT・AIの統合による生活習慣病の予測制御法の確立と地域介入実装

TARGET3: 住民の主体的な行動変容を促す情報活用促進環境の確立

研究開発課題4
IoTデバイスによるリアルタイム代謝管理の実現とヒト・暮らしへの先端IoT融合

研究開発課題5
生活環境病を予防し地域住民の健康行動を促進するまちづくり・環境基盤の構築

健康情報基盤を中心に、地域と経済が持続的に発展していく

病気にならないように
まち全体が見守ってくれる

健康情報が自然と蓄積され
生活の場面に活用されていく



自分で主体的に生活・行動を選び
健康をデザインする

未来型ヘルスケア・セントラルシティの共創
目指す将来の拠点像

街中で健康情報が利活用され
様々な産業が発展していく

山梨発・世界へ拡がるオミックス x IoT x AIによる住民主体型ヘルスケア未来共創拠点
— 健康情報基盤と行動変容モデルで地域と経済が持続的に発展する国際モデル都市の創出 —